

みどりのきた 三殿北遺跡

国道11号大内白鳥バイパス建設に伴って発掘調査を行っている東かがわ市三殿の三殿北遺跡について紹介します。

遺跡は大内平野西端部にあって、平野西部を東西に流れる番屋川と北川に挟まれた丘陵の南東斜面裾部に位置します。ちょうど複数の谷筋が平野に向かって開ける場所にあり、視界は主に東側の平野へ開けます。

この遺跡からは調査地の南東を流れる番屋川の旧流路と考えられる東西に流れる古い流路跡が数条見つかりました。最も古い流路跡は弥生時代中期初頭の遺物を含むもので、次に時期がわかるのは平安時代の遺物を含むものです。後者は前者の流路を削って流れています。後者の南岸は後の時代の流

路に壊されて良くわかりませんが、北岸は壊されずに残っている部分が多く、流路の埋没過程を検討することが可能です。

中でも注目できるのは北岸付近から出土した平安時代の土器です。大半が椀や甕など日常雑器ですが、わずかながら、緑釉陶器や灰釉陶器といった県外から運ばれたものも含まれます。また、赤色顔料が付着した須恵器も出土しています。顔料の付着面が平滑になっていることから、割れた器を硯に再利用したと考えられます。「上井」と墨書した椀が出土していることから、この付近には文字を読み書きした人々がいたことが想定できます。更に、銅椀の破片と考えられるものも見つかっており、近隣にこれらを使用した施設があったことがうかがえます。銅椀は一般的な集落ではあまり見かけない遺物なので、役所などの公的施設が存在したと考えられるのですが、遺跡内にはその痕跡はみられません。



なお、遺跡の下流側には平成26・27年度に調査を行った内間遺跡があり、大型の幹線水路がみつかっています。三殿北遺跡で出土する土器の時代よりも古いものであることから、直接関係はないようです。三殿北遺跡近隣に平安時代に新たに井堰が構築され、その堰を管理する立場の人間がいた、あるいは施設があったことを「上井」という墨書が示しているのではないかと考えています。

香川県埋蔵文化財センターでは、古代の県庁といえる讃岐国府の位置とその実態を明らかにするために、平成21年度から「讃岐国府跡探索事業」に取り組んでいます。その結果、発掘調査で国府の中心施設の一部が明らかになるなど、大きな成果を得ることができました。

讃岐国府に関する研究は300年ほど前の江戸時代に始まり、大正時代には府中村(現在の坂出市府中町)で文献資料や古地名を中心とする調査が行われています。

昭和50年代以降には、坂出市教育委員会や香川県教育委員会が讃岐国府跡推定地の発掘調査を行い、讃岐国府が置かれた時代である古代の遺構や遺物が検出され、徐々にその姿が明らかになってきました。

埋蔵文化財センターでは平成27年度に昭和50年代に香川県教育委員会によって実施された発掘調査成果(昭和52～59年度)をまとめた報告書『讃岐国府跡1』を刊行しました。

今回の展示では平成27年度の発掘調査成果と報告書『讃岐国府跡1』に掲載された内容について、文字・写真・パネルと出土遺物などで紹介します。



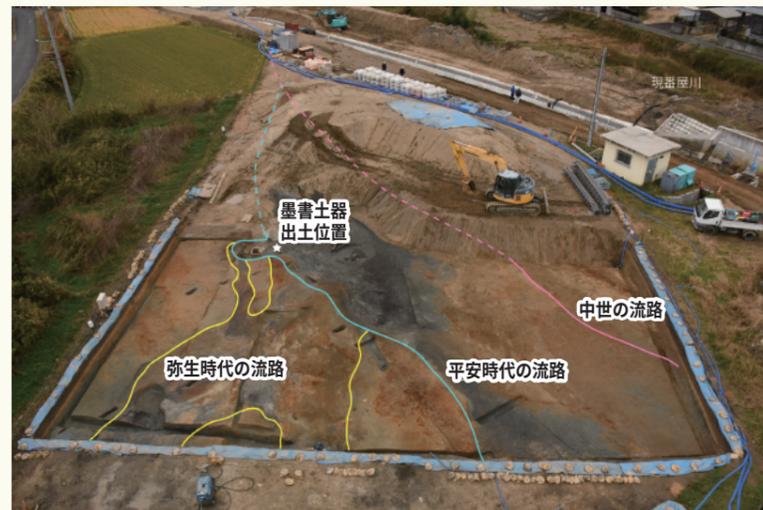
平成27年度讃岐国府跡発掘調査現地説明会の様子



展示風景



奈良時代の掘立柱建物跡(総柱建物)北から



三殿北遺跡 流路群



「上井」墨書



灰釉陶器(左)・硯(右)



土器出土状況

2017年1月
発行：香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024
香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
tel: 0877-48-2191 / fax: 0877-48-3249
HP: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>
E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp

